

神はわたしに力を帯びさせ わたしの道を完全にし
わたしの足を鹿のように速くし 高い所に立たせ
手に戦いの技を教え 腕に青銅の弓を引く力を帯びさせてくださる。

詩編 第18編 33-35節

慈しみと恵みに富みたもう全能の父なる御神

この日、青山学院大学洋弓部創立50周年記念祝賀会を、関東学生アーチェリー連盟委員長 杉本紀明様、また上智大学、立教大学、東北学院大学、明治学院大学洋弓部の主将・役員の皆さん、また安藤理事長、本郷体育会長、狩野OB連合会会長を始めとする大勢の体育会OB連合会関係者が列席して下さるなか、盛大に持たしめられますことを心より感謝申し上げます。

14-15世紀の伝説の英雄、ロビン・フッドやウィリアム・テルの名前を出すまでもなく、西欧における洋弓には長い歴史と伝統があります。旧約聖書まで遡れば、その歴史は4000年にわたると言えるでしょう。しかし、日本の大学スポーツとしては、日本学生アーチェリー連盟が発足したのが1959年ですから未だ54年の歴史を数えるにすぎません。したがって、青山学院大学洋弓部50年の歩みは、日本におけるアーチェリー発展の歩みとほぼ軌を一にしていると言えます。なによりもこの半世紀にわたり、あなたが祝福と恵みを豊かに注いで、本学洋弓部を導き、支え、育んでくださったことを心より感謝します。

願わくは主よ、学生諸君が更に精進を重ね、三部に属する男子チームが二部、一部へと昇格し、一部に昇格した女子チームが、常にインカレに出場できる選手を輩出できるようにならせてください。いや、夢は更に大きく高く広がります。お隣の韓国女子チームが、ソウルからロンドンオリンピックまで7連覇を成し遂げ、ロンドンオリンピックでは、我が国の古川高晴選手が、男子個人総合で銀メダルを受賞し、女子団体が銅メダルを受賞したことを思う時、アーチェリーが、実はアジアの人間に適したスポーツとの確信を与えられます。それ故、主よ、青山学院大学洋弓部から、いつの日か、オリンピックのゴールド・メダリストを輩出することができるよう成長させてください。

しかし、洋弓部の目標はただ単に試合に強くなることだけではありません。もともと聖書のギリシア語では「的を外す」という意味を持つハマルタノーという動詞が、転じて「罪を犯す」という意味を持つようになったように、なによりも学生諸君が、大学での日々の学びを怠ることなく、アーチェリーに精進することを通して健全な精神と健全な肉体を育み、人生の歩みのなかで、あなたにあって的を外すことなく、「地の塩、世の光」としての歩みを全うする者となることを得させてください。

日ごろから洋弓部を熱心に支え導く中澤進一先生、水谷喜和監督、木村正純コーチの労をあなたが存分にねぎらってください、五十嵐OB会長を始め、共に歩まれるOB・OGの皆さんの上に、あなたの祝福が豊かに注がれますように。そして今日から始まる60年、70年、100年に向かっての新たなる歩みが、力強きものとなりますよう導いてください。

しばらくの時、生ける主がこの場に親しく臨み、備えてくださった豊かな糧を感謝しつつ食し、杯をくみかわし、楽しく喜びにあふれる祝いと交わりの時としてください。

この祈りを青山学院大学のまことの創立者である主イエス・キリストの御名によってお祈り申し上げます。

学院宗教部長 嶋田 順好

嶋田 順好